

産業構造審議会産業技術環境分科会
研究開発・イノベーション小委員会
若手ワーキンググループの設置について

1. 設置の背景と趣旨

令和元年6月に研究開発・イノベーション小委員会が提言した中間とりまとめ「パラダイムシフトを見据えたイノベーションメカニズムへ」においては、研究開発と実用化の好循環を実現し、世界の中で日本が存在感を発揮するための新しいイノベーションエコシステムを構築する方向性が示されたところである。

この提言の下、具体的に新しいイノベーションエコシステムを構築するには、過去の成功に囚われず、非連続的な技術革新やビジネスモデルの刷新等を進めることが必要となる。また、短期的な取組のみならず、パラダイムシフト後の「次の30年」という中長期的視点での取組も重要となる。イノベーションは未来を創っていくことであり、その未来を創っていくための議論には、「次の30年」の当事者として、過去に囚われず非連続的な技術革新等を起こしていく若い世代の視点が必要不可欠である。

このため、研究開発・イノベーション小委員会の下に新たに「若手ワーキンググループ」（仮称）を設置し、産学の若手の研究者や起業家等の議論を通して、研究開発・イノベーションの支援や環境の在り方について審議する。

2. 主要検討事項

研究開発・イノベーション小委員会の審議事項のうち、特に現場に携わる若手の研究者、起業家等に対する支援施策、研究開発・イノベーション環境の整備等に関する重要な事項について（当面の間、ベンチャー企業と大企業の連携、大学と企業の連携、その他研究開発・イノベーション環境に関わる個別政策を中心に議論）

3. 委員案

委員案は別紙のとおり。

4. スケジュール

令和2年4月から12月に計3回程度開催し、その後の開催は検討予定。